北海道帯広三条高等学校

〇校訓
・真理を探究せよ
・至誠勤勉たれ
・心身を鍛練せよ

〇学校教育目標
・高い学力を身につけた知性ある人間を育成する
・健全な判断力を備えた自律的な人間を形成する
・心身ともに健康で明朗な人間を育成する

〇情報
・創立108年
・各年次６クラス
　男子：女子＝４：６、帯広市内と市外が半々
・文武両道が伝統
　部活動加入率90%、運動部も文化部において
　全道大会・全国大会へ進出する部活動も多数
・平成19年度より進学重視型単位制の導入
・国公立大学合格者80名程度

〇スクールミッション
・生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
・多様化する国際社会において主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成
・高い学力と自主・自律的な人間性を身につけ、社会に広く貢献する人間の育成

スクールミッション達成に向けた取組

〇地域の方の協力
・帯広市役所や帯広美術館との協力
・地域の企業との協力
・総合探究や授業による協力

〇総合的な探究の時間
・１年次「地域探究」の実施
・２年次「類型別探究」の実施
・３年次「進路探究」の実施

〇北海道CLASSプロジェクトの活用
・地域コンソーシアムの設定
・コーディネーターの配置
・授業や総合探究での活用

	1年次	2年次	3年次
授業	学びの３乗プラン ～ 教科横断的な学習の実践		
	■基礎的知識の習得 ■ 学ぶ環境の構築	■基礎的知識の活用 ■学習の自己調整	■ 個に応じた学習展開 ■探究的な学習の実践
総合的な探究の時間	■ 探究スキルの習得 ・各種スキルトレーニング ・専門家による進路講話 探究するスキルの習得と探究に向かう姿勢の獲得	■ 探究スキルの活用 ・専門家との課題探究 ・グループ探究学習と発表活動 専門的知識・技能の獲得と将来への意欲向上	■ 探究の深化と実践 ・地域課題への提言 ・各種研究大会やコンテストへの挑戦 専門的知識・技能の活用と将来への具体的な展望

本物の知識・本物の評価
→ 学ぶ意欲の向上

コーディネーター

協働して解決する学び
→ 主体的な学び

◆探究コンソーシアム◆

地域との協働					
地域課題解決 帯広市役所 十勝振興局	教育・スポーツ 道教育大 道教委	SCIENCE & TECHNOLOGY 帯広畜産大	看護・医療 & 地域支援 道医療大	国際理解・人権 JICA 十勝インターナショナル協会	ART & 表現 帯広美術館 十勝毎日新聞社

育成すべき資質・能力

進路実現 ⇩ 地域の未来を創造する人材

帯広三条高校における地域とのつながりを活かした教育活動

○帯広市のまちづくり(令和２年度～)

・帯広市役所都市政策課の協力
・高校生の視点で帯広市の課題について検討し、解決に向けた提案をする
・帯広市長との対話も実現
・生徒自身が地域に対する関心の向上、課題を解決する能力の向上を実感

○対話型鑑賞（令和３年度～）

・北海道立帯広美術館の協力
・とかち芸術振興機構の協力
・美術作品を見ながら、自身の想いを表現しながら、他者の考えを受容する
・他者理解を深める、表現力を身に付ける
・美術品を身近に感じることができ、鑑賞をしようという気持ちが芽生える

○地域貢献する企業の講話（令和２年度）

・２年次の現代社会の授業にて実施
・企業として、地域貢献をしている企業や団体から講師を招いて実施
・生徒が地域貢献案を検討し、企業の方へ提案し、実現に動いたグループも

・１年次の音楽Ⅰの授業でも地域人材を活用した授業を実施

2022年（令和4年）10月23日（日曜日）　十勝毎日新聞

秋の動物園
親子楽しく
帯三条生が手作りフェス

落ち葉を使ってアート制作を体験する子どもたち

○地域探究（令和４年度～）

・１年次の総合的な探究の時間での取組
・生徒は教員＋地域人材からなるゼミに所属し、探究活動を実施

・地域の企業とコラボし、おからを活用した商品を考え、店舗で販売

○地域探究（令和４年度～）

・十勝と食に注目し、十勝の農業を応援する歌を作成し、地域FM局のテーマソングに採用

・福祉関係の方と協力し、ユニバーサルデザインに注目したエプロン作りを実施

○類型別探究（令和５年度～）

・２年次の総合的な探究の時間での取組
・生徒は６つの類型から自身のキャリアに合うものを選び所属し、探究活動を実施
・校外のイベントに参加したり、大学での実験実習に参加したりするなど、学校外での体験や経験を通して自身のキャリアについて考える場となる

生徒の変容　２年次類型別探究　教育・スポーツ類型の活動より

〇探究テーマ
・「不登校」の言葉のイメージとその実際

〇探究テーマ設定の理由
・ニュース等で不登校の生徒が増えているデータを見たこと
⇒不登校は全国的に増加傾向であり、良くないことだから減らした方がよいという考えがグループの中心的なもの

〇不登校の児童生徒の居場所作りをしている団体の方の話を聞いたことによる気づき
・児童生徒自身が「学校に行きたいたくない理由」がわからないことが多い
・特に発達段階が低い児童の場合、自身の気持ちを表現することも困難である
・成長していくことで、「学校に行きたくない理由」に気がつく場合もある
⇒「なんで学校に行けないの？」を知りたくなるが、子ども自身が分からない場合も多く、一人でいたいという場合もあるため、無理に登校させることは良くないのではないか

〇活動を通した今の想い
・不登校は悪いことではなく、積極的に減らさないといけないことではないかもしれない
・学校での学びは多様化しており、民間のフリースクールなどの学びの場もある
⇒児童生徒一人一人にあった自分のペースで学ぶことができる学びの場（My style登校）が必要である
⇒将来、教員として児童生徒の前に立つときは、学びの多様化を理解し、子どもたちのペースを大切にしながら教育活動をしていきたい

活動を通した生徒の変容（考えの変化）

〇まとめ～帯広三条高校における地域とのつながりを活かした教育活動～
・令和２年度より帯広市役所とのつながりにより、「帯広市のまちづくり」について地域の方と一緒に考える取組が開始
・令和３年度より北海道CLASSプロジェクトの指定され、地域コーディネーターが配置されたことにより、地域人材を活用するハードルが低下
・令和４年度より総合的な探究の時間において「地域研究」が開始し、地域の方と一緒に探究的な活動をしている場が増加
・令和５年度より総合的な探究の時間において「類型別探究」が開始し、生徒自身のキャリアと地域の取組を結びつける活動開始
・学校として「持続可能な地域とのつながり」を構築し、地域と共に教科横断的な探究的な学びを継続していきたい